

県民要求実現のために 議会論戦・申し入れを行う!

降雹被害に補償を



4月26日、党県議団は、神戸市、加古川市、姫路市、高砂市の市会議員らとともに、4月16日に兵庫県南西部を襲った降雹被害への対策を求める緊急要望書を提出し、支援を訴えました。

要望書では、▽被害の全容把握、▽相談窓口の設置、支援制度などの周知徹底、▽被害への見舞金や補償などの支援を求めています。

各議員らからは「収穫時のキャベツやレタスなど露地栽培の野菜などに被害が出ている。ビニールハウスなど農業施設の被害も大きい。農業振興センターは、被害から一週間以上たっているのに、実態を十分把握していない。全容把握につとめ、必要な補償や、見舞金など検討してほしい」、「その日から、市役所の電話は鳴りっぱなしで、翌日は550件の相談が寄せられたそうだが、市

としては、罹災証明は出すが、補償などはしないと話している。なぜ自然災害なのに補償がないのか」、「直径5cm大の雹が降り、屋根や雨樋等がぼこぼこになり、補修に60万～70万かかるとされる。何らかの見舞金や補償など検討してほしい」などの実態や要望がだされ、支援を求めました。



4月26日、申し入れ文を手渡す庄本県議、こむら潤党国政対策委員長と、神戸、加古川、高砂、姫路市の各市会議員ら

臨床研修医の定員削減するな

4月23日、党県議団は医療関係者とともに、2025年度に県全体で10人、該当病院で2人の臨床研修医を削減しようとしていることに対し、「臨床医の削減はするな」と求めました。

県担当者は、「国の施策によるもので、変更はできない」と回答。医師不足の中、国言いなりに臨床医を削減することは認められません。



4月23日、申し入れ文を手渡す医療関係者と党県議団

庄本えつこ議員 // 請願討論



庄本議員は、核兵器禁止条約への署名・批准を求める意見書、高等教育の学費無償化を求める意見書、訪問介護における基本報酬の引き下げ撤回等を求める意見書、子どもの医療費の無償化を求める件などの請願について、いずれも採択を求めて討論を行いました。

庄本氏は、「来年は、被爆80年。生きているうちに全ての核兵器をなくし、平和な世界の実現をというのが被爆者の願い。この思いにこたえるべき」と主張。また「県立大学の県内学生無償化は、高すぎる学費負担軽減策の第一歩として歓迎している。さらに県外学生、そしてすべての学生が学費負担の心配なく大学に通えるように学費無償化を求めるべき」としました。また自宅で暮らすことを保障する訪問介護費の引き下げをやめ、介護報酬を引き上げることで、子育て世帯応援へ、子どもの医療費の18歳まで所得制限なしの無償化を求めました。

久保田けんじ議員 // 議案討論



久保田議員は、今年度の診療報酬の改定により、特許切れ先発薬を選択する患者に対し、後発薬（ジェネリック）との差額の1/4を保険適用外とし、患者負担に上乘せする仕組みの導入に対する討論を行いました。

「対象となるのは1095品目。生活習慣病の治療には欠かせない降圧薬、糖尿病薬、認知症の進行を抑える抗認知症薬、他にも抗精神病薬、抗アレルギー薬など幅広い疾患の治療薬も含まれる。薬によっては負担が3倍にも膨れ上がるものもある。患者の負担増は認められない」とし、反対しました。